



家庭ゴミの係

青少年健全育成地域相談員 総括 市川勝也

近所に社員が出て周辺のゴミを拾い集めている事業所があり、きっと毎朝行っているだろうと思われま。これまでは、買い物の際に店でいただく普通の大きさの袋を手に空き缶などを拾っていましたが、それが晩秋に入って大きなゴミ袋に替わっているのに気づきました。袋の中にぎっしりと落ち葉が入っています。路上周辺には紅葉した街路樹の葉が散乱し、小さな袋では間に合わなくなったのでしょうか。落ち葉は空き缶などの一般ゴミと違い、量的にも膨大です。風でよそから吹き飛ばされてくるものもあります。黙々と落ち葉を拾い集める社員たちの姿に共感を覚えます。

今年度、自治会の衛生委員という家庭ゴミの係を担っています。町内には約2畳分の広さのゴミ集積場が2カ所あり、毎週月曜日と木曜日の「燃やすゴミ」と金曜日の「プラスチックゴミ」、月1回の「資源回収の日」と「埋め立てゴミの日」の集積場の清掃が主な仕事です。ゴミ収集車による回収後、水を入れた蓋付きの白いバケツ2個と竹ホーキ、ちりとり、ゴミ袋をもって集積場に行き、水を流してきれいにします。ついでに周辺を竹ホーキで掃くので、黙々と落ち葉を拾い集めている社員に共感できるのです。すでに、3本の竹ホーキをダメにし、現在4本目を使っていますが、雨が降った後など路面にびったりくっついて落ち葉を掃くには、先が短くなった竹ホーキがとても便利で重用しており、捨てがたいものです。

清掃をしていると「ごくろうさま」と声をかけてくれる人たちが多くいます。その中に「ありがとうございます」と声かけしてくれる人がいます。「ありがとうございます」はかけ算です。

人の心を温める言葉で、「ごくろうさま」よりも喜びが何倍にもなれます。努力が軽視され、地域でのきずなも薄れがちな最近の風潮ですが、ありがたみと感謝の念に溢れる人たちが多くいます。地域において、何かを進めようとするとき、面倒くさいことを引き受ける人は多くはないようです。地域のために出番があるはずと分かっているにもかかわらず、年間200日ぐらいに及ぶことはなかなか大変なことです。ゴミの収集は、公共のゴミ収集サービスに頼らなければ得られません。そこにおのずとルールができ、守らないとだんだん厳しくなるのがルールです。今は、完全なルール通りにはいかない現状ですが、これ以上厳しいルールになるのは避けたい思いできれいにしています。



青少年教育センターの面接相談から

沼津市青少年教育センター指導主事 高島信子

青少年教育センターでは、学校生活や対人関係、進路に向けての不安などから不登校になったり、発達や子育てに心配をしたりしている児童生徒や保護者を対象に、予約をさせていただいての面接相談を実施しています。



相談内容の多くは、不登校に関するものです。そこで、この面接相談を通して行動力が失われている要因や原因を探り、その状態を把握し、行動力の回復を図るためのお手伝いをしています。言い換えれば、不登校の児童生徒の場合は自立を促し、行動力を回復することが目標になっています。

さらに、よりよい対応を図るために保護者や本人の了解を得て、学校と情報を交換しています。

また、児童生徒本人だけでなく保護者との面接相談も実施します。保護者には、家族の関わり方や生活のリズムを整えるといった、本人を取り巻く環境を整備していくことを具体的にお願ひしています。面接相談では、相談者それぞれが異なる環境や習慣の下、生活していることに気付かされます。特に、相談者が普段思っている「ふつう」や「あたりまえ」の程度が大きく異なっていることが気になります。

そのため、家庭生活での一つ一つの場面や様子を伺う際に、具体的な手順や考え方、困っていることなどを聞かせていただくようにしています。そうすることで、抱えている課題を見出し、解決に向けて動き出すことができると考えています。

今年度も昨年度に引き続き、力を入れて取り組んでいる活動に「はばたき」があります。これは、普段面接相談に来ている子ども達同士で、体験活動等を行うことにより、集団適応力を付けていこうとするものです。

4月には、フォトロゲイニングを模した活動を行いました。青少年教育センターから蛇松緑道を通り、港口公園までのルートであらかじめ設定しておいたポイントを、写真を手がかりに探しながら散策しました。昼食後は、学年も性別も違う子ども達が港口公園の芝生で球技やフリスビーをして楽しみました。これをこっそり見ていた母親が、明るく振る舞う我が子の姿に驚いていました。

10月のオータムディキャンプでは、少年自然の家にてカレーライスやバウムクーヘンの調理をしたり、木製のメダルに各自がデザインをしたりする体験を行いました。また、芝生広場でセンターの職員達も交えて、思い切り体を動かして楽しむことができました。

「はばたき」活動を重ねていくうちに、顔見知りの仲間ができ、子ども達同士で、趣味や遊びの話をする姿も見られるようになってきました。同世代の子ども達と関わり合うことの大切さを実感しました。

このような活動を通して、子ども達の成長の一歩につなげていきたいと考えています。青少年教育センターに通ってきている子ども達が、人との関わり合いを通して自分の居場所を見つけられるように、よりよい支援をしていきたいと日々思っています。

面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受付時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：Tel.951-3440

平成28年10・11・12月の状況

10・11・12月には新たに申し込みがあった17件（10月9件、11月3件、12月5件）を含め、48件（延べ相談回数416回）の相談に応じました。

1 相談内容別新規相談件数

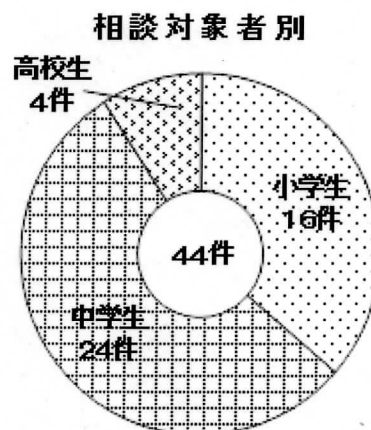
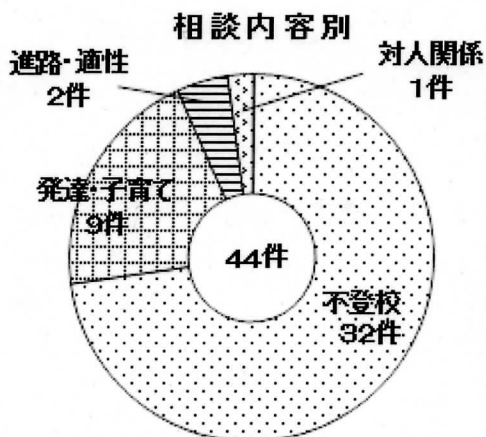
	非 行	不 登 校	発 達・子 育 て	進 路・適 性	対 人 関 係	そ の 他	合 計
10月	0	7	1	1	0	0	9
11月	0	3	0	0	0	0	3
12月	0	3	1	0	1	0	5

2 相談対象者別

	幼 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	少 年	一 般 成 人	合 計
10月	0	4	5	0	0	0	9
11月	0	0	3	0	0	0	3
12月	0	2	2	1	0	0	5

3 今年度の新規相談受付状況

受付件数 44件 （前年同期 46件）



4 10・11・12月の相談件数（新規及び継続）

	性別	非行	不登校	発達子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		7	3	1			11
	女		1	2				3
中学生	男		17	2				19
	女		11					11
高校生	男		1					1
	女		2			1		3
少年	男							0
	女							0
一般成人	男							0
	女							0
計	男	0	25	5	1	0	0	31
	女	0	14	2	0	1	0	17
男女合計		0	39	7	1	1	0	48

5 10・11・12月の相談回数（48件の相談延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
10・11・12月	男	226	10	7	243
	女	158	7	8	173
	計	384	17	15	416

6 相談指導学級の様子

4人いた通級生のうち、2学期初めから学校に復帰した生徒が3人いましたが、10月から新たに2人が体験通級を行い、11月から相談指導学級に正式入級をしてきました。

全員が中学3年生で高校進学を希望しています。それぞれが希望する高校の説明会や体験入学がこの時期にたくさんあり、皆緊張しながらも参加しています。そして、在籍する中学校の担任の先生の進路指導を受けながら志望校を決めていきます。



スポーツや調理、創作などの体験活動は、こうした緊張感の高いときにひとときの安らぎとなっています。スポーツや体験活動で笑顔になる子どもたちを見て、私たちの心も和みます。

気持ちをリフレッシュして、目標に向かって精一杯努力し、夢をかなえてくれることを願っています。

電話相談



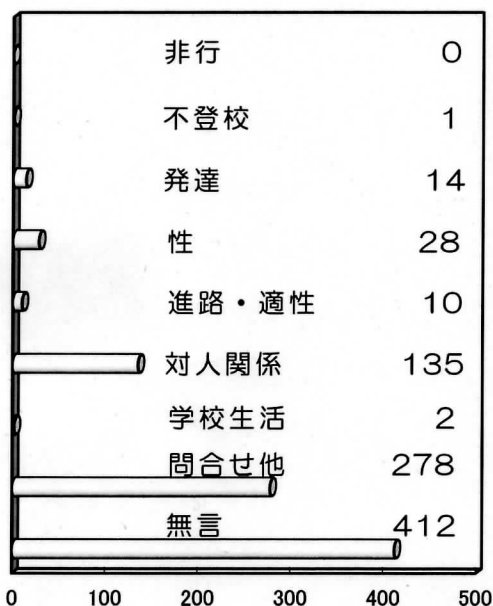
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：
 午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成28年10・11・12月の状況

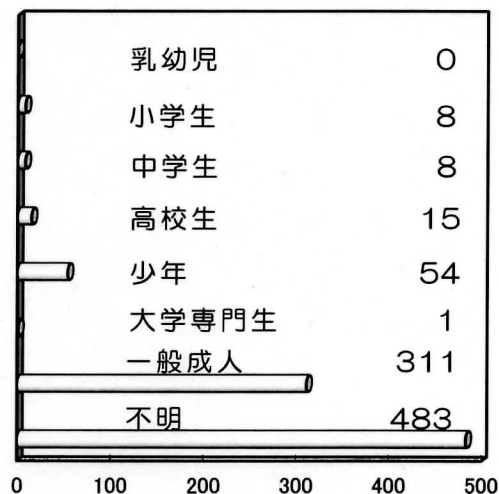
10月には363件、11月には326件、12月には191件の相談が寄せられました。
 (前年10月：312件、前年11月：426件、前年12月：349件)

1 10・11・12月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



2 今年度の電話相談受信件数状況

総件数 2,576件 (前年同期 2,620件)



(1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	2	11	46	61	59	331	16	864	1,186

(2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	31	25	53	138	2	1,008	1,319



補導活動とは

西浦地区少年補導委員 渡辺一雄

西浦地区には、補導活動の対象となる営業店舗はありません。

また、通学時以外にはあまり子供達を見掛ける事が少なくなりました。人数が減少した事やTVゲーム等に夢中になり、外遊びをする子が減っている事が挙げられると思います。その様な事から、西浦地区では補導活動はあまり意味がない様に感じていました。

補導委員になる以前の補導活動のイメージとして、非行少年を捕まえるという様なイメージを持っていたからです。

しかし、7年前と今年に少年補導委員を委嘱され、研修や補導活動を行う中で、実際には捕まえる事を目的とせず、声かけや見守りを行う事だと知りました。

地区内の子供達も大抵の子は、大人を見るとあいさつをしてくれます。小さい頃からよく見知っている子供達がほとんどだからです。とはいえ、中高生になってくると、軽く会釈をするだけの子が多くなってきます。そんな時こそ、こちらから元気なあいさつをする様に心掛けています。



「補導活動」

あまり堅苦しく考えずに、活動していきたいと思います。

1 少年補導委員の延べ参加人数（10月～12月）

	市職員	教員	女性 補導委員	母親 補導委員	地区代表 補導委員	警察	地区 補導委員	総数
10月	9	17	5	5	13	0	295	344
11月	9	12	9	9	9	1	276	325
12月	6	11	4	0	6	0	129	156

2 補導回数・補導状況（10月～12月）

	補導回数				注意・指導 愛の声かけ	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
10月	3	12	36	51	188	0	0
11月	4	9	37	50	153	0	0
12月	2	7	12	21	116	0	0

3 補導活動（平成28年4月からの累計）

補導回数	延べ 参加補導委員数	注意・指導 愛の声かけ	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
385	2,859	1,593	0	0

4 平成28年10・11・12月の街頭補導少年の学識別状況（中央・地区別補導）

県内一斉冬季少年補導へのご協力ありがとうございました。

ゲームセンター入場者は昨年度のこの時期とほぼ同数であり、高校生が依然として多数を占めています。年度当初は自転車走行違反が多く、事故発生が心配されましたが、徐々に減ってきました。

補導委員の皆様、寒さ対策を万全にして、無理のない補導をよろしくお願いいたします。

区分	学識別	性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月から計の
行為別	飲酒	男							0	1
		女							0	0
	喫煙	男			3				3	5
		女							0	0
	夜間はいかい	男			6			2	8	46
		女			4				4	58
	不良交友	男							0	4
		女							0	1
	怠学・怠業	男							0	0
		女							0	0
	ゲームセンター入場	男	3	9	71				83	239
		女	5	13	26				44	137
	パチンコ店入場	男							0	0
		女							0	0
カラオケ店入場	男							0	0	
	女							0	0	
自転車の暴走行為	男							0	8	
	女							0	3	
自転車の二人乗り	男		4	2				6	10	
	女							0	2	
自転車の無灯火	男			6			1	7	30	
	女							0	6	
危険な遊び	男							0	0	
	女							0	0	
その他	男	2	4					6	191	
	女	3	2	3				8	196	
計	男	5	17	88			3	113	534	
	女	8	15	33				56	403	
男女合計			13	32	121		3	169	937	

事後指導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	0
		女							0	0
	他機関へ連絡	男							0	0
		女						0	0	
男女合計			0	0	0	0	0	0	0	

愛の声かけ運動	男	51	42	65		1		159	378
	女	62	32	35				129	278
男女合計			113	74	100		1	288	656

「眠り」について考える Part VI

＝正しい姿勢で眠る事が大切＝

「時は金なり」といいます。「1日24時間」という時間は、すべての人間に平等に与えられた時間です。この「1日24時間」を「どう使うか」が、問題です。

1日、たった1時間であっても、無駄にした時、「人生80年」で考えると「約2万9千時間（1200日、3年4ヶ月）」を有効に使っていないことになります。

睡眠時間について考えると、1日平均6時間の睡眠は、人生の1/4の時間です。言い換えれば、20年間は眠っていることになります。おろそかにはできません。

悪い姿勢のまま居所寝をしてしまったため目が覚めた時、腕や手脚に痺れを感じたり、肩に違和感を感じたりした経験は、誰しも持っていることと思います。

「悪夢」で目覚めると、胸を圧迫する姿勢になっていたり、手が胸を押さえつけていたりした経験もあるのではないのでしょうか。こう考えると、疲労回復のためには、睡眠時の姿勢も大切な要素といえます。

睡眠の姿勢には、大別すると3つ体勢（仰向け、うつ伏せ、横向き）があります。基本的には、手足の力が抜け、リラックス状態で体重の負担が全身に均等にかかる姿勢が理想的であると言われています。それは、立った状態で「休めの姿勢」をイメージして、仰向けに寝る状態です。うつ伏せの姿勢は呼吸がしづらいため適していません。乳幼児にとっては、呼吸不全を起こしやすく、死の危険も伴う姿勢といわれ、注意が必要です。横向きの姿勢は、体重の負担がアンバランスなため、内臓が部分的に圧迫される恐れがあります。布団の厚さ・重さ、枕の高さ等も、体重のかかり方に影響を与えます。もちろん、個人差もあると思われま。

したがって、「こうでなくてはならない」と、一概にはいえませんが、すっきりと目覚め、1日を快適に過ごすためには、「睡眠の姿勢」に気を遣ってみることも大切であるといえます。



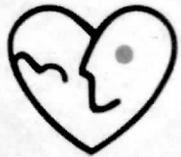
センターの活動予定（2・3月の主な活動）

※天候による変更あり

相談指導学級体験活動		はばたき活動	
2月2日（木）	受験準備	2月22日（水）	社会体験
9日（木）	受験振り返り	3月8日（水）	マジック教室
16日（木）	学習体験	補導関係	
3月2日（木）	社会体験		
9日（木）	社会体験	2月24日（金）	補導委員会代表者会
16日（木）	体験活動振り返り		

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言（昭和55年）

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート（心）を表しています。